

わが家の防災メモ

家族の名前	生年月日	血液型	会社・学校の電話番号	携帯電話番号
わが家の避難先(親類宅・避難場所など)			家族が離ればなれになった時の集合場所	

いざというときの連絡先

機関名	電話番号	機関名	電話番号
安城市役所	0566-76-1111(代表)		
衣浦東部広域連合安城消防署	0566-75-0119		
安城警察署	0566-76-0110		

火事・救急 **119** 警 察 **110**

災害用伝言サービス

地震や洪水などの大災害発生時は、電話利用が急激に増加し、電話がつながりにくい状況が数日間続くことがあります。このような場合は、「災害用伝言ダイヤル」・「災害用伝言板サービス」・「災害用ブロードバンド伝言板(web171)」が開設されます。

災害用伝言ダイヤル

このサービスは、大規模な災害が発生した場合、「声の伝言板」(安否情報)の役割をする電話サービスです。被災地内とその他の地域の人々との間などで、伝言の登録・再生をすることができます。毎月1日・15日、1月1～3日、および防災週間(8月30日～9月5日)・防災とボランティア週間(1月15日～1月21日)においてお試し利用ができます。

ガイダンスが流れます

1 **1 7 1** をダイヤル

2 **1** を押す

3 被災地の方の電話番号を「市外局番」からダイヤルしてください

4 伝言を録音する

ガイダンスが流れます

1 **1 7 1** をダイヤル

2 を押す

3 伝言を再生する

4

災害用伝言板サービス

携帯電話を使って被災者は安否状況の伝言を登録し、外部の人がその伝言を確認できます。携帯電話のトップメニューから「災害用伝言板」を開き、伝言の登録・確認を行います。
※操作方法等の詳細は、携帯電話各社のページをご覧ください。

災害用伝言板

メッセージの登録

メッセージの確認

安否状況の登録

伝言・安否状況等を入力します。

安否状況の確認

安否状況を確認したい相手の携帯電話番号を入力して検索します。

災害用ブロードバンド伝言板(web171)

<https://www.web171.jp/>

インターネットを利用して被災者の安否確認を行う伝言板です。伝言情報の登録・閲覧が可能です。

発行 安城市役所 市民生活部 危機管理課・建設部 土木課 〒446-8501 愛知県安城市桜町18番23号 TEL. 0566-76-1111 (代表)

(令和8年7月作成)

安城市

取り出しやすい場所に保管しておきましょう。 **保存版**

防災ガイドブック

風水害・土砂災害編

避難情報の種類と、とるべき行動

警戒レベル	警戒レベル 3	警戒レベル 4	警戒レベル 5
情報の種類	高齢者等避難	避難指示	緊急安全確保
みなさんの行動	危険な場所から高齢者等は避難！ 避難に時間を要する人(高齢者、障害者、乳幼児等)とその支援者は、危険な場所から速やかに避難してください。そのほかの人も避難の準備を整え、必要に応じて自主的に避難を開始しましょう。	危険な場所から全員避難！ 災害リスクのある区域の居住者等は家族や近所の人と助け合いながら今すぐ避難してください。 警戒レベル5の発令を待ってはいけません。	命の危険 直ちに身の安全を確保！ すでに災害が発生または切迫している状況です。避難所への立退き避難が困難な場合は、少しでも浸水しにくい高い場所に移動するなど直ちに身の安全を確保してください。

※避難情報、防災情報、警戒レベルの詳細についてはP3でご確認ください。

情報伝達の流れ

安城市

- 高齢者等避難
- 避難指示
- 緊急安全確保

気象情報

- 防災ラジオ
- 緊急速報メール(エアメール)
- 安城防災ナビ・ホームページ
- 広報車
- 消防団による広報
- 報道(テレビ・ラジオ)

市民のみなさん

防災情報の入手先

安城市の防災情報、雨量や河川水位等の情報は、インターネットなどからも確認することができます。

安城防災ナビ 	
●安城市の防災情報をプッシュ通知で配信するアプリ	
安城市役所〈望遠郷〉 https://www.city.anjo.aichi.jp/	
●安城市の避難・防災に関する情報など	
安城市LINE公式アカウント、安城市公式X	
●被害情報や避難所開設などの緊急災害情報を発信	
安城市河川水位観測システム https://www.kasen-suui.city.anjo.aichi.jp/AROP/AROP001	
●市内観測局の雨量、河川水位、道路冠水情報など	
愛知県 川の防災情報 https://www.kasen-aichi.jp/	
●県内の雨量表や、県管理河川の水位情報など	
国土交通省 川の防災情報 https://www.river.go.jp/	
●全国の雨量や水位、洪水予報に関する情報など	
気象庁ホームページ https://www.jma.go.jp/	
●全国の気象や災害、洪水予報に関する情報など	
名古屋地方気象台 https://www.jma-net.go.jp/nagoya/	
●愛知県内の気象に関する警報・注意報など	

安城市防災ラジオ

電源が入っている状態であれば、ラジオから音声が出ていないときでも緊急放送を受信すると自動的に起動し、緊急放送を伝えます。

ラジオ FM ピッチエフエム災害放送 83.8MHz

ケーブルテレビ キャッチネットワーク災害放送 12ch

災害が発生し、災害対策本部が設置された場合、行政とピッチエフエム・キャッチネットワークは連携して緊急災害放送を開始します。

Yahoo! 防災速報

●河川洪水予報、豪雨予報などを現在地や設定地域に通知する防災アプリ

中部電力 停電情報お知らせサービス

●地点を登録すると、停電情報をプッシュ通知でお知らせするアプリ

外国人向け災害情報提供アプリ「Safety tips」

●緊急地震速報等の各種災害情報を外国語でプッシュ通知するアプリ

地域の防災力を高めよう

市民同士が協力して

市民、家庭、企業が自らを災害から守る

自主防災組織等の地域社会が協力して災害から守る

市や国、県、防災関係機関が市民等を災害から守る

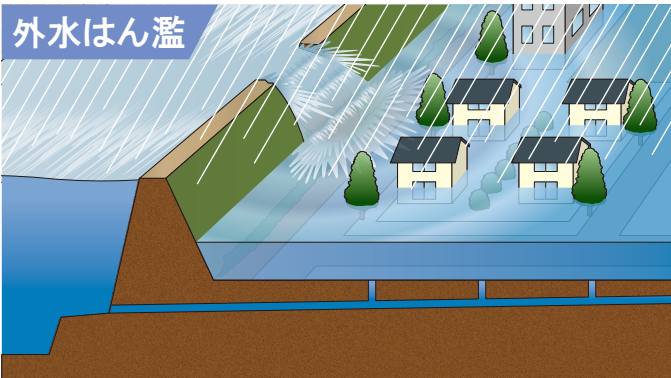
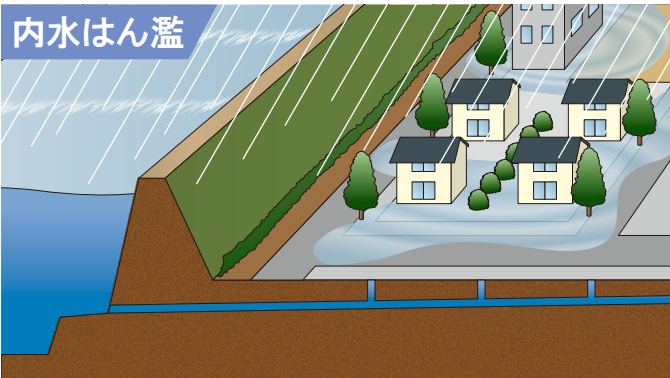
公助

自助

互助

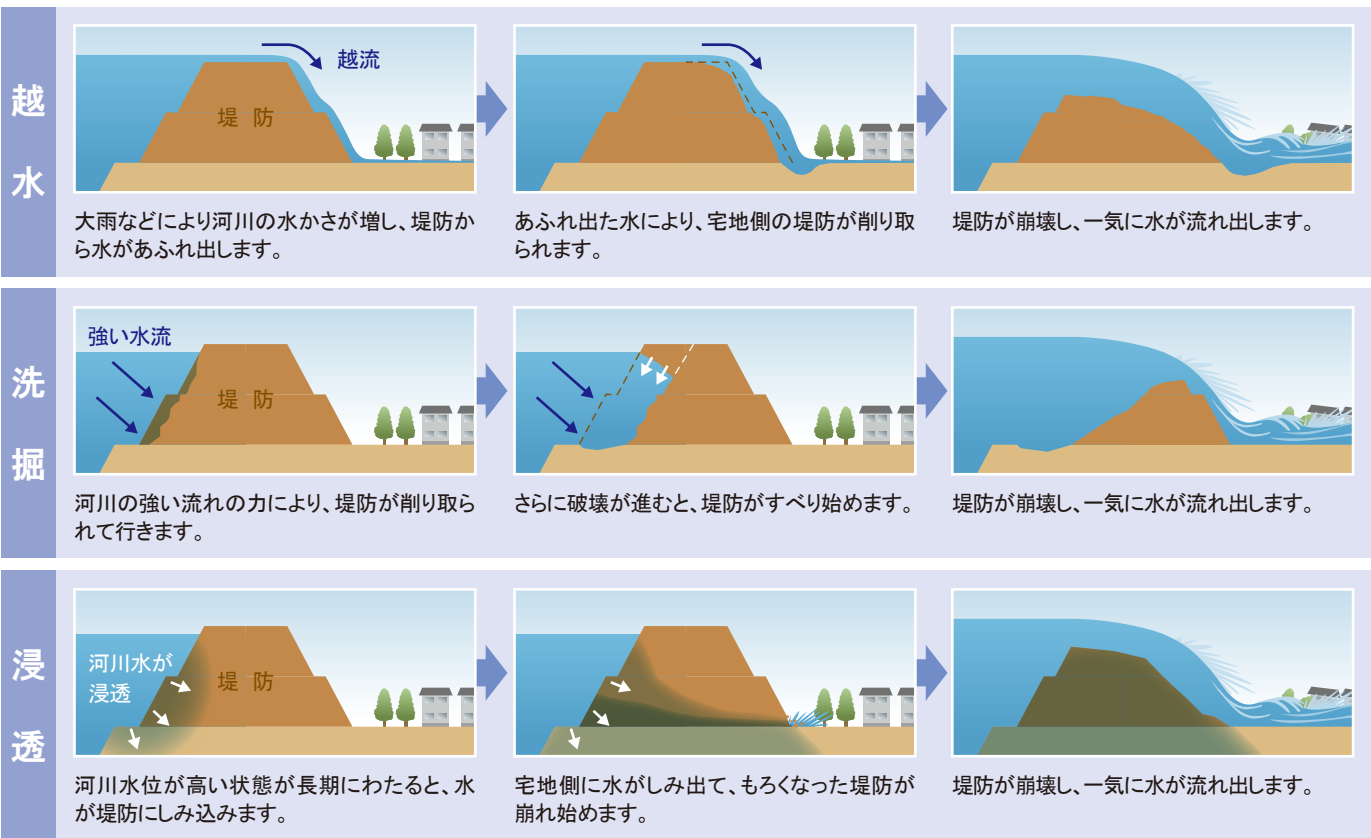
● 内水はん濫と外水はん濫

洪水には、降った雨が水路や下水道などで排水しきれなくなることにより起こるはん濫（内水はん濫）と、川の堤防が壊れたり堤防から水が溢れたりして発生するはん濫（外水はん濫）があります。まずは、洪水の発生する仕組みを理解して、避難所等まで安全に避難できるよう経路を確認しておきましょう。

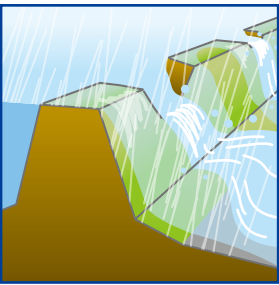


● 堤防決壊のメカニズム

降雨や洪水による堤防決壊のメカニズムは、①河川からあふれ出た水により決壊する「越水」、②河川の強い水流により、堤防が削り取られて崩壊する「洗掘」、③堤防の内部に水がしみ込むことによって強度が低下し決壊する「浸透」の3つに大別されます。

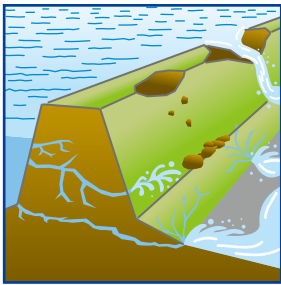


 こんな時は要注意!!



■大雨のとき

大雨のとき、河川等の水位が上昇し堤防を越えた水の勢いによって堤防が浸食され、決壊することがあります。土砂・流木などで水の流れが閉塞した場合、堤防を越流しやすくなり、浸食・崩壊の危険性は、一層高くなります。



■大地震のとき

大地震のときに、河川等の堤防が異常な力を受け亀裂が生じたり、地盤の液状化により決壊する危険性があります。比較的小さな地震でも、堤防の内部に生じた亀裂などにより強度が低下し、水圧に耐えきれず決壊に到ることがあるので注意が必要です。

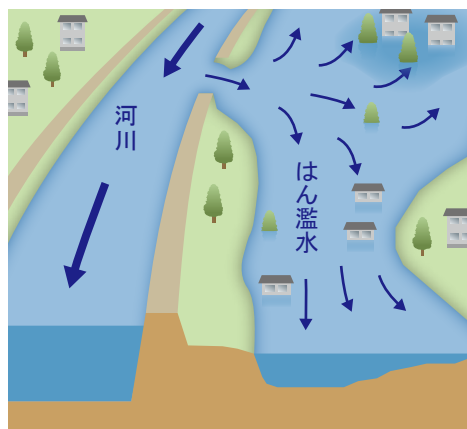
自主防災組織の役割と活動

災害発生時には、安城市や関係機関は全力をあげて対応にあたりますが、火災や道路の寸断・断水・停電など様々な被害が広い範囲で起きた場合は、対応が非常に困難な事態が予想されます。このような場合には、地域ぐるみで協力し合い、助け合うことが大切になります。地域の自主防災組織が行う訓練に参加して、防災知識を身につけたり、いざというときの役割分担を決めるなどして、地域の防災力を高めましょう。

● 河川のはん濫特性

河川のはん濫特性は、地域の地形条件から洪水時のはん濫水の挙動に着目して分類すると、「拡散型はん濫」、「流下型はん濫」、「貯留型はん濫」の3つのタイプに分けることができます。

拡散型はん濫



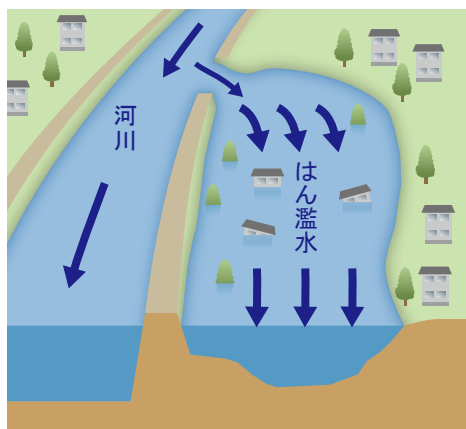
特 徴

- 扇状地、自然堤防帯、三角州などで、低平地面積が広い地形で見られます。
- はん濫水が広範囲に拡散します。
- 堤防決壊部周辺以外での流速は比較的に遅くなります。

気をつけること

堤防から離れている地域でも、はん濫水が到達します。大河川においては、多くの場合、雨がやんだ後にはん濫が起こります。

流下型はん濫



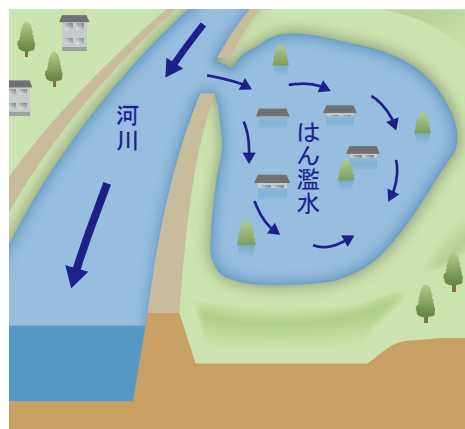
特 徴

- 谷底平野などで、高低差のある地形や、平地面積が小さい地形で見られます。
- 高水深、高流速ではん濫水が流下する機会が多く、家屋が流失するほどの大きなエネルギーが発生する場合があります。

気をつけること

浸水域が河川に沿って流下します。はん濫水は浸水域が広がらないまま流下するので、川から離れる方向への避難が有効です。

貯留型はん濫



特 徴

- 川と川の合流点や、はん濫域が丘陵や自然堤防帯等に囲まれているような地域で見られます。
- 浸水している時間が、比較的に長いタイプのはん濫です。

気をつけること

浸水深が深くなることが多く、また短時間で水位が上昇することから、早めに浸水区域から出ることが求められます。

安城市で起こるはん濫はどのタイプ？

安城市では、矢作川・鹿乗川・猿渡川等からのはん濫水が低地にひろく広がる「拡散型はん濫」が起こりますが、河川沿いでは「流下型はん濫」への注意も必要です。また、市内南部の油ヶ淵や矢作川・鹿乗川周辺では、「貯留型はん濫」が起こります。

安城市で起きた過去の水害

▼令和4年7月27日
半場川の決壊状況



▲令和7年9月5日
市内の増水状況



令和4年7月27日

- 総雨量：144mm
1時間あたりの最大雨量：92mm
- 床上浸水：12件
 - 床下浸水：24件
 - 通行止め（市道）：11箇所
 - 河川決壊：半場川

令和7年9月5日

- 総雨量：197.5mm
1時間あたりの最大雨量：65.5mm
- 床上浸水：10件
 - 床下浸水：10件
 - 通行止め（市道）：18箇所

警戒レベルを用いた避難情報

市町村は、警戒レベル相当情報などを参考に、総合的に避難指示等の発令を判断します。

避難情報等

警戒レベル	避難行動等	避難情報等
警戒レベル5	命の危険 直ちに身の安全を確保! 安全な避難ができず、命が危険な状況です。	緊急安全確保 ※2 ※2 必ず発令される情報ではない (安城市が発令)
《警戒レベル4までに必ず避難》		
警戒レベル4	危険な場所から全員避難! 災害リスクのある区域の居住者等は今すぐ避難してください。警戒レベル5の発令を待ってはいけません。	避難指示 (安城市が発令)
警戒レベル3	危険な場所から高齢者等は避難! 避難に時間を要する人(高齢者、障害者、乳幼児等)とその支援者は危険な場所から避難を開始しましょう。	高齢者等避難 (安城市が発令)
警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの 避難行動を確認 しましょう。	大雨注意報等 (気象庁が発令)
警戒レベル1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報 (気象庁が発令)

※1 警戒レベルは必ずしも1から5の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することもあります。

防災気象情報の見方

防災気象情報が発表されたら、段階ごとにとるべき行動を確認し、早めの避難や準備に心がけましょう。

令和8年5月29日から、防災気象情報が変わりました。

ポイント①	河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮
警戒レベル5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報
警戒レベル4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報
警戒レベル3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報
警戒レベル2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報
警戒レベル1	早期注意情報			

災害の種類を4つに整理！
情報が「河川氾濫」「大雨」「土砂災害」「高潮」の4つの災害に整理され、「何の危険が迫っているのか」が、より具体的になります。

ポイント②

危険度が「警戒レベル」でわかる！

危険度を5段階の数字(警戒レベル)で表示。今がどの程度危ないのかがひと目で分り、とるべき行動を直感的に判断できるようになります。

CHECK!!
線状降水帯の発生などは「気象防災速報」として発表します

数年に一度の猛烈な雨が観測された場合や、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続いている場合には、気象台から、「気象防災速報(記録的短時間大雨)」や、「気象防災速報(線状降水帯発生)」が発表されます。この情報が発表された地域では、災害の発生につながる事態が生じていることを意味しています。

「特別警報」が発表されない場合でも、甚大な被害が発生する可能性があります

●大雨などのときには、テレビやラジオなどで最新の注意報・警報の発表状況を確認するようにしましょう。また、NTTテレホンサービス「177」や気象庁ホームページ(<https://www.jma.go.jp/>)でも確認できます。※安城市に注意報・警報が発表される際の雨量基準値などについては、気象庁ホームページで知ることができます。

警戒レベル相当情報以外の特別警報・警報・注意報

これらの情報には「警戒レベル」はつきませんが、大雨などの防災気象情報と同様に注意してください。

発表基準

特別警報

極めてまれで異常な現象

警報

重大な災害の発生するおそれのある現象

注意報

災害の発生するおそれのある現象

特別警報

暴風、波浪、大雪、暴風雪

警報

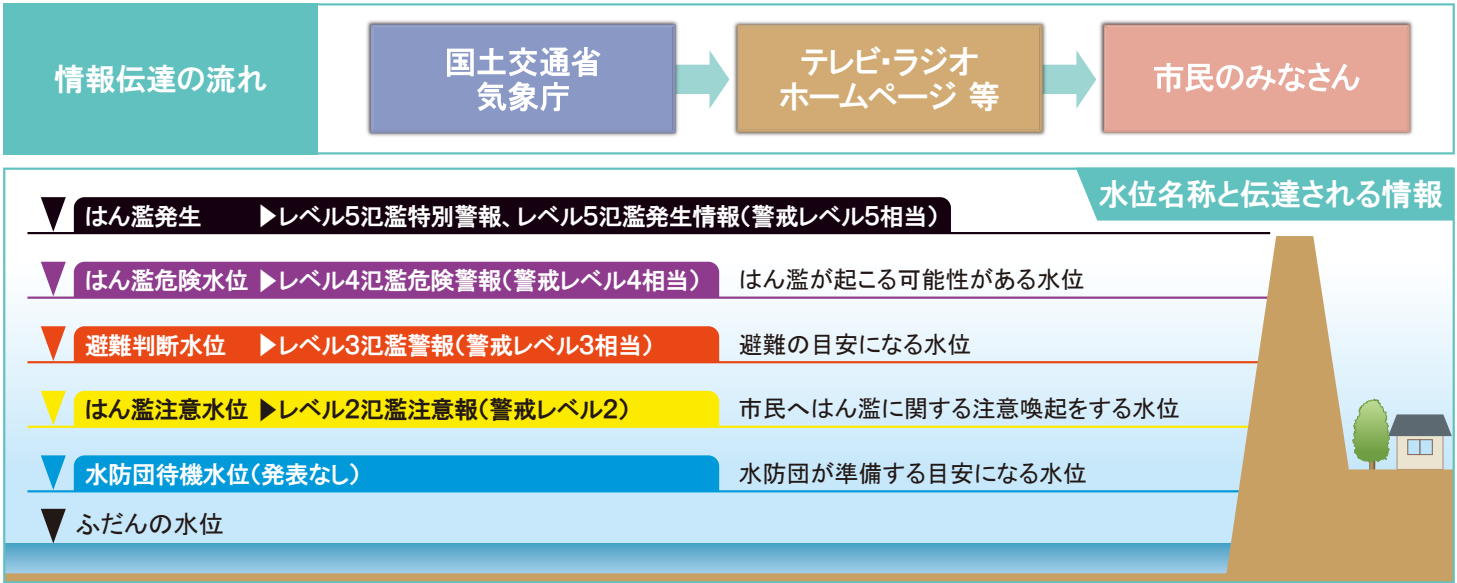
暴風、波浪、大雪、暴風雪

注意報

強風、波浪、大雪、風雪
濃霧、雷、乾燥、なだれ、着氷、霜、低温、融雪

● 矢作川のはん濫発生情報

川から水があふれ氾濫が発生するおそれがあるとき、国土交通省と気象庁が共同して洪水予報を発表します。
※河川名と危険度のレベルに応じた情報名を組み合わせで発表します。



● 雨の強さと降り方 (1時間雨量)

やや強い雨
10～20mm未満



地面一面に水たまりができ、話し声が聞き取りにくくなります。長雨になりそうなら警戒が必要です。

強い雨
20～30mm未満



土砂降りの雨。傘をさしていても濡れてしまうほどの雨です。小河川ならはん濫、また、がけ崩れの心配もあります。

激しい雨
30～50mm未満



激しい雨。山崩れ、がけ崩れが起こりやすくなります。道路規制も行われます。避難の準備を。

非常に激しい雨
50～80mm未満



滝のように降り、あたりが水ぶきで白っぽくなります。屋内で寝ている人の半数くらいが気づくほどの激しい雨で、多くの災害が発生します。

猛烈な雨
80mm以上



息苦しくなるような圧迫感があります。大雨による大規模な災害が発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要です。

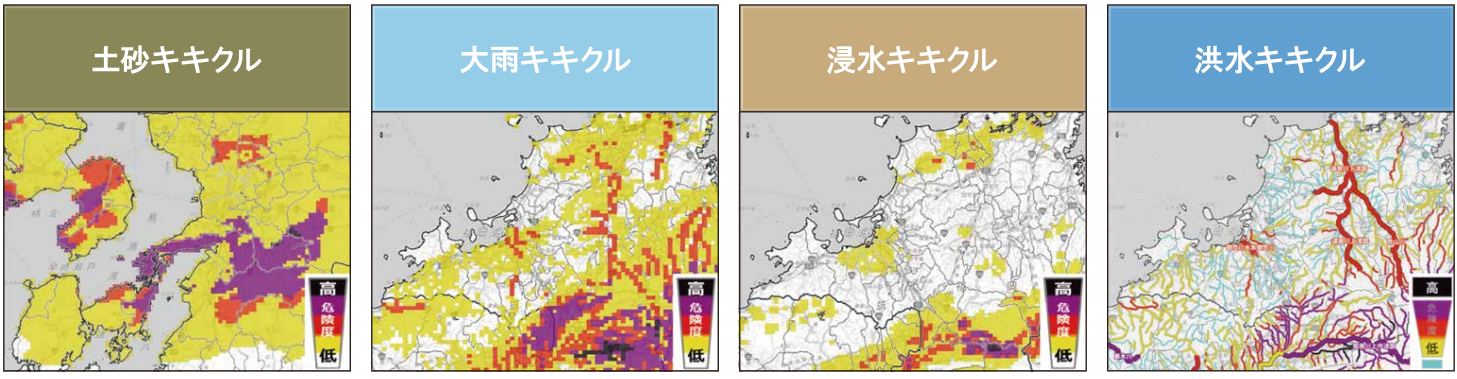
※気象庁資料参照

● キキクルで、地域の状況を確認しましょう

大雨による災害リスクの高まりを地図で確認できる気象庁のサービス「キキクル」で、「今、どこが危ないか」を確認しましょう。
危険度は4段階の色分けで表示され、リアルタイムで確認できます。

キキクル

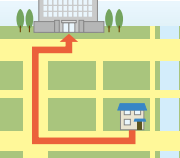
検索



※気象庁資料参照

● 避難の心得

いざという時のために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。また、災害の危険性が想定された場合には、情報入手して、早めの避難を心がけましょう。

 状況により、すばやく避難しましょう 感染症などの感染リスクを減らすために「避難所」への避難以外にも安全な「親戚・知人宅」などに避難することも考えてみましょう。ただし、周囲に不安があればためらわず、避難所に避難して下さい。	 外出中の家族には連絡メモを残そう 「どこどこへ避難する」といったようなメモを残しておくといいでしょう。
 住所、氏名、連絡先などを記載した防災メモを持とう 特に高齢者や子どもは、事前にメモを用意し、身につけて避難しましょう。	 集団で助け合おう 単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。
 車での避難は控えてください 車は、約30cmの浸水で走行困難になります。車での避難は注意しましょう。	 できるだけ安全なルートで避難しましょう 川べり、地下歩道などは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。
 ペットと一緒に避難しましょう ペットの避難場所は、避難所の屋外になります。屋内には連れて入ることはできません。	 避難所等では係の人の指示に従いましょう 避難所等に着いたら、入る前に住所、氏名などとともに、現在の体調や体温を報告しましょう。
 非常持ち出し品は、すぐ持ち出せる場所に 非常持ち出し品は両手が使えるリュックサックにまとめすぐに持ち出せる場所に用意しておきましょう。感染症予防のため、マスク、アルコール消毒液、体温計、携帯トイレも持参しましょう。	

● 洪水時の避難

夜間の避難は周辺の状況を目で見て確かめることができません。十分に注意しましょう。

 ● 歩ける深さは約50cm。水深が腰までであるような無理は禁物です。早めに高所に避難しましょう。	 ● 水面下はどんな危険が潜んでいるかわからないので、長い棒を杖代わりにして安全を確認しながら歩きましょう。	 ● 裸足、長靴は禁物。長靴は脱げやすく危険なので、紐で締められる運動靴がよいでしょう。	 ● はぐれないようにお互いの体をロープで結んで避難しましょう。特に子どもから目を離さないように！	 ● お年寄りや身体の不自由な人などは背負いましょう。幼児は浮き袋等を使い、しっかり安全を確認して避難させましょう。
---	--	--	--	--

● 水平避難と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。そのような場合は、避難所への移動（水平避難）だけでなく、近隣の高い建物や自宅の2階などといった高い場所への移動（垂直避難）を行うという判断も必要です。

 危険な避難	 避難場所への避難（水平避難）	 高所への避難（垂直避難） 浸水による建物倒壊の危険がないと判断される場合には、近隣建物の高層階や、自宅の2階以上へ緊急的に一時避難し、救助を待つことも検討してください。
---	--	--

● 避難行動要支援者

避難行動要支援者とは、年齢や障がいなどによって災害発生時の対応に何らかのハンデを負っている人々のことです。一般に高齢者や障がい者の方々などが該当します。地域で協力しあいながら、近所の高齢者、障がいのある方などの安否確認、避難施設への移動を支援しましょう。



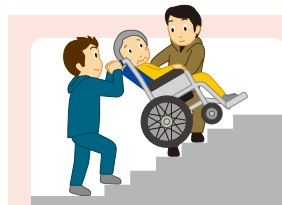
高齢者・病人

- おぶって安全な場所まで避難してください。
- 複数の介助者で対応してください。



目の不自由な方

- 声をかけ情報を伝えます。
- 誘導する場合は、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽く持つてもらい、半歩手前をゆっくり歩きます。



肢体の不自由な方(車椅子)

- 階段では2人以上が必要。上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動します。
- 介助者が1人の場合、ひもなどを用意し、おぶって避難してください。



耳の不自由な方

- 話すときは、口をハッキリと開け、相手にわかりやすいようにします。
- 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝えます。

● 豪雨・洪水時の地下は危険

豪雨や洪水時の地下施設・地下室などは危険です。地下空間は、地上の浸水状況と大きく異なり、冠水や停電の危険性が高いため、特に早めの避難が必要です。



地下室では外の様子がわかりません。



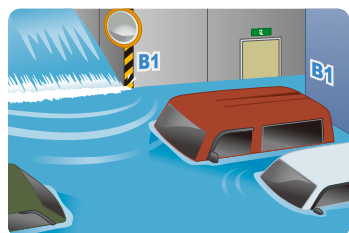
水深が20～30cmでも、水圧でドアは開かなくなります。



地上が浸水すると、一気に水が流れ込んできます。



浸水すると電気が消え、エレベーターは止まります。



地下駐車場は水につかるおそれがあります。



はん濫水が地下街へ流れ込むと、階段からの脱出が困難になります。

大雨・洪水時は、アンダーパスに注意

道路や鉄道などが立体交差する場合、その下を通る地下道を“アンダーパス”といいます。大雨・洪水時、アンダーパスは真っ先に冠水してしまいます。



もし避難しなかったら

災害時、もし、避難しないことを安易に選択した場合は、次のような問題が起こると予想されます。

浸水が長期化した場合は…

- 浸水深が深い場合には、家の外へ出ることが不可能になります。
- 備蓄していても水や食料等がなくなります。
- 衛生環境が悪化します。
- 病人が出た場合の対応が難しくなります。
- 定期的な診療を受けている人の診療が困難になります。

電気・ガス・水道が止まると…

- 停電により、テレビ等から情報を得ることができなくなります。
- ライフラインが止まることに伴い生活環境が悪化します。

高層階では…

- エレベータが止まり、階段での移動を余儀なくされることから、高層階特有の問題が発生します。
- 水・食料等の救援物資を、低層階から調達することが難しくなります。
- 病人が出たとき、階段での移動は困難を極めます。

孤立した場合は…

- 体調を崩した場合の対応が難しくなります。
- 情報を得られない場合、不安になります。

● 家族で「防災会議」を開く

災害時に最も心配になるのは家族の安否です。家族そろって防災について話し合しましょう。



家族一人ひとりの役割分担

火の始末の係、非常持ち出し品の係、避難経路の確保の係など、家族の役割分担を決めておきましょう。

家族間の連絡方法

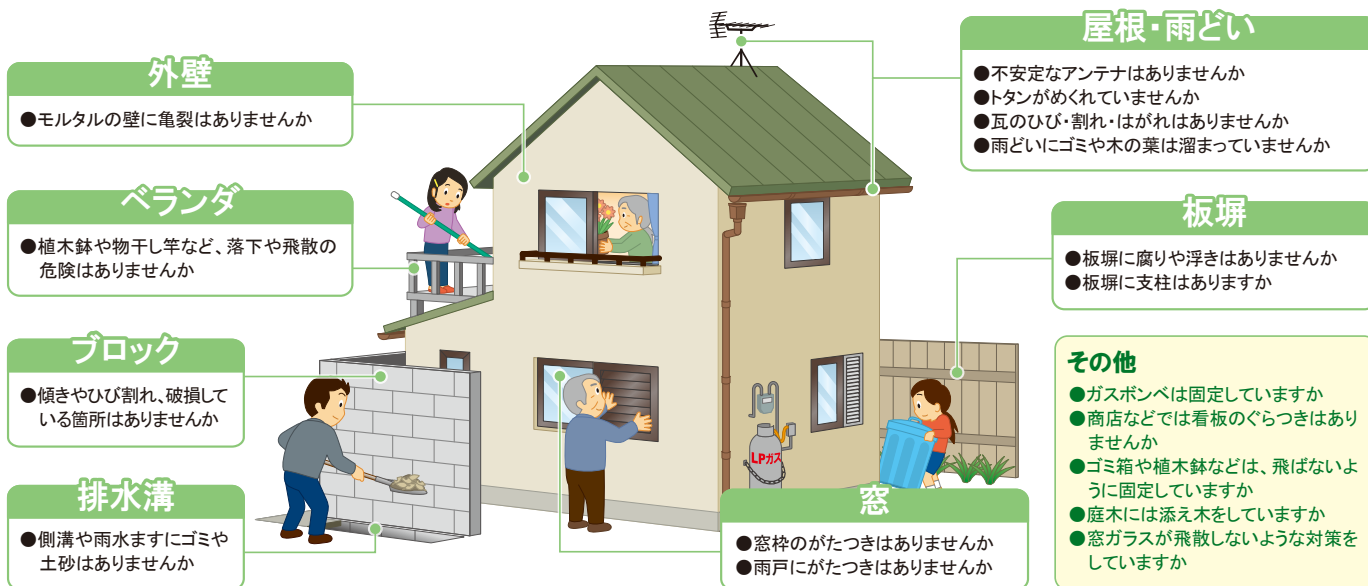
災害用伝言ダイヤル、LINEやFacebook等を活用するなど、災害時の居場所を伝える方法を考えましょう。

避難所、避難経路の確認

自宅や学校、勤務先から避難所への安全な経路の確認、被災後の家族の集合場所を決めておきましょう。

● 家屋の被害を抑える

風水害による家屋の被害を抑えるために、日頃から家の周りの点検や整備を行いましょう。



● 非常持ち出し品・備蓄品の準備

非常持ち出し品(1日分)：避難のときに持っていくもの

避難が必要になった場合に備えて、非常持ち出し品を準備しましょう。背負ったときに両手の空くりュックサックなどにまとめておくと便利です。いつでも持ち出せる場所に保管しておきましょう。

食料

- ☐ 飲料水
- ☐ 非常食(アルファ化米、缶詰、ビスケットなど)
- ☐ 携帯食(チョコレート、キャンディなど)

救急・安全対策

- ☐ 救急医療品(ばんそうこう、包帯、ガーゼ、傷薬、消毒薬、目薬など)
- ☐ 常備薬(胃腸薬、かぜ薬、鎮痛薬)
- ☐ 持病のある方の薬、お薬手帳
- ☐ ヘルメット
- ☐ ホイッスル
- ☐ 体温計、マスク、アルコール消毒液

貴重品

- ☐ 現金(小銭も必要)
- ☐ 貴重品(預金通帳、印鑑等)
- ☐ 免許証、マイナンバーカード、資格確認書のコピー
- ☐ 各種カード類

衣類など

- ☐ 衣類(防寒具、着替え等)
- ☐ 下着類
- ☐ 軍手
- ☐ タオル、洗面用具
- ☐ 雨具
- ☐ アルミ製保温シート

日用品など

- ☐ 携帯トイレ
- ☐ ティッシュペーパー、ウェットティッシュ
- ☐ ビニール袋
- ☐ ライター、マッチ
- ☐ 懐中電灯、予備の電池
- ☐ 携帯ラジオ、予備の電池
- ☐ 携帯電話の充電器、バッテリー
- ☐ 筆記用具(油性マジック)
- ☐ 新聞紙
- ☐ ロープ、布粘着テープ
- ☐ 使い捨てカイロ(冬)、冷却シート(夏)
- ☐ ハザードマップ

家族構成によって必要なもの

- ☐ めがね、コンタクトレンズ
- ☐ 粉ミルク、液体ミルク、離乳食、おむつ、おしりふき
- ☐ 介護食、大人用おむつ
- ☐ アレルギー対応食品
- ☐ 生理用品
- ☐ ペットフード、リード、ケージ

備蓄品(3～7日分)：災害発生後の生活に備えて備蓄しておくもの

災害発生から数日は物流が止まり、普段通りに買い物ができないことが考えられます。救援物資が届くまで、または災害が落ち着くまで生活に困らないよう、日頃からしっかり備蓄しておきましょう。

- ☐ 飲料水(1人1日3ℓを目安)
- ☐ 非常食(アルファ化米、缶詰、レトルト食品など)
- ☐ 毛布、寝袋
- ☐ ブルーシート(敷物、雨よけ用)
- ☐ スリッパ
- ☐ マウスウォッシュ、ドライシャンプー
- ☐ ドライバー、スコップ、パール、ジャッキ、のこぎりなどの工具

- ☐ 携帯トイレ、トイレトペーパー
- ☐ カセットコンロ、予備のガスボンベ、固形燃料
- ☐ 紙皿、紙コップ、割りばし
- ☐ キッチン用ラップ
- ☐ ゴミ袋
- ☐ 給水用ポリタンク



「ローリングストック」を心がけましょう

備蓄食料・飲料水などの保存期限が切れる前に消費し、その分だけ新たに補充して常に一定量のストックがある状態を保つことを「ローリングストック」といいます。定期的に古い備蓄品から消費することで無駄を出さず、また、いざというときに期限切れで使えなくなることを防ぎます。



● 局地的大雨(ゲリラ豪雨)から身を守るために

近年、急激に発達した積乱雲に伴う局地的な大雨(ゲリラ豪雨)による痛ましい事故が起こっています。このような事故は、雨による災害への警戒・注意を促す大雨警報・注意報に至らないような雨量でも起こることがありますので、川の中や川の近くにいるときは注意が必要です。

もしこんな場所にいたら



総雨量は少なくとも、十数分で甚大な被害が発生することがあります

天気の変化に注意し、危険を感じたらすぐに身の安全を図ってください

チェックすべき事	こんなときは要注意
天気予報	「大気の状態が不安定」「雷」「天気の急変」などの表現があるとき
警報や注意報	雷注意報、大雨やはん濫の警報・注意報が出ているとき
気象レーダーなどの観測情報(携帯電話などで入手)	周辺や上流で雨が降っているとき
空の状態	「急に真っ黒な雲が近づいてきた」「雷鳴が聞こえる」「稲光が見えた」とき
川の状態	「水かさが増えてきた」「濁ってきた」「流木や落ち葉が流れてきた」とき
看板	「危険区域には立ち入らない」などの表現があるとき

危険を感じたら、ただちに避難してください！

遊んでいる子どもや工事中の作業員は、周囲の状況の変化に気付きにくいので、保護者や監督者は危険を感じたら、すぐに避難を呼びかけましょう。

● 土砂災害の種類と前兆現象

大雨や台風、地震が起きたときには、地盤がゆるみ、がけ崩れや土石流、地すべりといった土砂災害を引き起こす可能性があります。土砂災害から身を守るためには、まず自分の家の周りに危険がないか確かめることが重要です。また、土砂災害には前兆現象があります。下記のような前兆現象を確認したら速やかに避難してください。

土砂災害の種類には、大きく分けて3つのタイプがあります。自分の周りの土砂災害危険箇所がどのタイプであるか確認しておきましょう。

がけ崩れ	土石流	地すべり
		
地中にしみ込んだ水分により、急な斜面が突然崩れ落ちる現象です。突然起きるため、家の付近で起きると逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなります。	長雨や集中豪雨などによって、山や川の石と砂が水と一体となって一気に下流へ押し流される現象です。	大雨や長雨等により雨水が地面にしみこみ、水の力によって持ち上げられた地面が広い範囲にわたりゆっくりと動きだすものをいいます。

! こんなときは要注意

土砂災害の前ぶれ(前兆現象)

五感	移動主体	がけ崩れ	土石流	地すべり
視覚	山・斜面・がけ	- がけに割れ目がみえる。 - がけから小石がバラバラと落ちる。 - 斜面がはらみだす。	- 溪流付近の斜面が崩れだす。 - 落石が生じる。	- 地面にひび割れができる。 - 地面の一部が落ち込んだり盛り上がりたりする。
	水	- 表面流が生じる。 - がけから水が噴き出す。 - 湧水が濁りだす。	- 川の水が異常に濁る。 - 雨が降り続いているのに川の水位が下がる。 - 土砂の流出。	- 沢や井戸の水が濁る。 - 斜面から水が噴き出す。 - 池や沼の水かさが急減する。
	樹木	樹木が傾く。	濁水に流木が混じりだす。	樹木が傾く。
	その他	——	溪流内の火花。	- 家や擁壁に亀裂が入る。 - 擁壁や電柱が傾く。
音		- 樹木の根が切れる音がある。 - 樹木の揺れる音がある。 - 地鳴りがする。	- 地鳴りがする。 - 山鳴りがする。 - 転石のぶつかり合う音。	樹木の根が切れる音がある。
におい		——	腐った土のにおいがする。	——

※上記は一般的な前ぶれです。すべての場所において必ず起きるというものではありません。

土砂災害特別警戒区域

土砂災害防止法に基づき指定される区域には、土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域の2つがあります。

土砂災害警戒区域(イエローゾーン)

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域で、警戒避難体制の整備を図ることを目的として指定します。

土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域で、住宅等の新規立地の抑制等を目的として指定します。